昭和四十九年度芸術祭参加

楳若勧二郎特別舞踊公演

昭和四十九年度芸術祭参加

楳若勧二郎特別舞踊公演

花は根に鳥は松にぞ帰るべき

花は根に鳥は松にぞ帰るべき

暮初めて鐘や響く入逗子

主催　楳若勧二郎

企画・制作　楳若勧助・楳若事務所　東京都江戸川区南小岩8-9-3 電話(657)7611(代) 編集・企画・デザイン ウメワカカンスケ

ご挨拶

楳若勧二郎

菊花薫る爽かな錦秋の候を迎え、皆様にはますますご清栄の段心よりお慶び申し上げます。

さて、江戸時代の中期から庶民の芸能として親しまれて来ました日本舞踊が、時の流れとは言いながら、庶民大衆と芸能愛好の心に於きまして既に懸隔の生じています事は否定し得ない事実であります。日本的なるが故に庶民と共に生きてきた日本舞踊の本質を踏まえて微力ながら私どもの手で昔の姿に戻したい－庶民の芸能、所謂大衆芸能に古典はないと信ずるから――この点に意を尽してきました私にとって本日の舞台はその所信を発表する生涯記念すべき舞台となることでしょう。それはこの度の芸術祭参加公演にあたり巨匠吉川義雄先生の演出、浪曲と音楽を配し演劇するすばらしい舞踊劇を作って下さった室町京之介先生、大衆芸能日本一と云われる二葉百合子師の出演を得、また私を支えて下さる出演者の皆様、そして、多くの関係スタッフ諸先生のご指導ご協力のご厚情に得るところ大であるからです。

なにとぞご来場の皆様にわかれましてもお目まだるき点も多々ある事と存じますが力一杯舞台を勤めますれば忌憚なきご高批ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

昭和四十九年十月二十九日

楳若流

近松門左衛門 原作
室町京之介 脚本
吉川義雄 演出
白石十四男 音楽
阿部純久 美術
楳若勧二郎 振付

遊女梅川
楳若勧二郎

亀屋忠兵衛
楳若 勧 助

孫右衛門
市川猿十郎

唄・特別出演
二葉百合子

浪曲と歌謡で綴る舞踊劇
梅川忠兵衛

全五景

序曲　唄・二葉百合子　三味線・玉川 美代子

第一景　槌屋の裏口
亀屋忠兵衛　楳若勧 助
遊女梅川　楳若勧二郎
小 女　桐若勧 柳
女 中　桐若勧美紗
料理人　中村福 省
同　心　中村又 雄
捕 手　中村又三郎
〃　中村昇三郎

第二景　闇の道
―第一景につづく―

第三景　道行き
亀屋忠兵衛　楳若勧 助
遊女梅川　楳若勧二郎
清元　浄るり　清元清美太夫
清元美寿太夫
清元初寿太夫
清元栄志太夫
三味線　清元秀二郎
清元寿三郎
清元一多郎

第四景　新口村
亀屋忠兵衛　楳若勧 助
遊女梅川　楳若勧二郎
孫右衛門　市川猿十郎

第五景　別れ路
亀屋忠兵衛　楳若勧 助
遊女梅川　楳若勧二郎
孫右衛門　市川猿十郎

■スタッフ

企画　楳若勧助
脚本　室町京之介
演出　吉川義雄
音楽　成久清一
美術　白石十四男
振付　阿部純久
　　楳若勧二郎
口演　二葉百合子
演奏　キングオーケストラ
邦楽　浄るり　清元清美太夫
清元美寿太夫
清元初寿太夫
清元栄志太夫
三味線　清元秀二郎
清元寿三郎
清元一多郎

唄物　梅屋福太郎社中

大道具　明座座大道具
照明　明治座照明部
衣装　市川衣裳　市川清也
かつら　酒井かつら
メーク　原 多美江
小道具　市川小道具
効果　青木国広
狂言方　竹柴楳二
進行　樋口栄次郎
総指揮　楳若勧助

『梅川忠兵衛』に就いて

室町京之介

「梅川忠兵衛」――近松門左衛門の艶場に描き出された此作品の原題は――「冥土の飛脚」――大阪淡路町の飛脚宿亀屋妙閑の養子で、大和の国新口村の中農孫右衛門の子忠兵衛が、新町（浪花随一の色里）槌屋の抱え遊女梅川との情艶ゆえ、心ならずも犯したその罪科に材を得た、上中下三段から成る浄瑠璃で、近松の盛名を確固不抜のものとした。九代将軍家重の宝永八年戊寅（西暦一七五八年）大近松五十九才の作品である。此一篇は、後に紀海音が改作して「傾城三度笠」更に改題した「傾城恋飛脚」をはじめとし、後世の廻り舞台や二重を創造した近松半二脚色の「恋飛脚大和往来」ほか八種の多きを数えるが、その凡てが「新口村」の段を眼目とする様に、筆者脚色の本篇も又「新口村」の父子別れを正念場としている（――――実説では、父に別れた忠兵衛が、梅川と共に逃れる御所街道で捕えられ、大阪に護送されたが、吟味中に獄死。悲嘆に暮れた梅川は尼となり、生れ故郷の近江路に梅川庵なる庵りを建て、忠兵衛の冥福を祈りつ、八十六才の長命を完了したと伝えている――――）吹雪をついて見えつ隠れる二人の姿、情痴の果ての艶かさを、心憎いまで美化して涙をそそる哀れ儚い人生悲劇の一曲に、その情熱を傾注した多感な種若流の家元は傑れた感覚と良識をもって鳴る頭取勘助師と協議の末――――即ち劇界の巨匠吉川義雄氏の演出を請い、名実共に大衆芸能界日本一と証はる二葉百合子師の協演と、此種音楽の権威白石十四男氏の協力を得るや、歌と浪曲に緩る画期的なる舞踊劇として、敢然芸術祭大衆芸能部門に参加したのである。更に素晴らしき阿部純久氏の装置に依る明治座美術部の侠援に依ってここに全く準備完了。今や成果を俟つのみである――諸賢におかれては、何とぞ変らざる御声援賜はる様、偏して希うや切である。

■道成寺について

楳若流文芸部

歌舞伎舞踊で、日本の民俗とふかいかかわりをもちながら、その人気が高まっていったものが数多くあります。この「京鹿子娘道成寺」は、従来、数多く作られた道成寺曲が、初代中村富十郎によって整理完成されたものが宝歴3年（1753）3月江戸中村座で、江戸下りのお目見得狂に演じて大あたりをとりました。能の「道成寺」に発想しながら、女形による純粋な長唄舞踊に美事に、転化させています。道行から、乱拍子、中啓の舞、手踊、鞠唄、花笠踊、恋の手習、かっこ踊、手踊、鈴太鼓、鐘入り、所作――と、さまざまの性格の踊がたくみに配列され、洗練された美しい振りが次々に展開する構成は、心からの客をたのしくさせます。小道具の扱いや衣裳の引き抜きのはなやかな変化もみどころです。

「もう少しむずかしい振りを付けてもよかったのではないか」との質問に、富十郎の答は、「むずかしい、振をつけておいたら、これから踊る人がいなくなり、大切な道成寺の所作がすたれてしまうから、わざとやさしい振にした」。とのことです。

比較的単純な正統の振の方が、技巧的に作為されたものより小手先きの、ごまかしがきかず、ほんとうはかえって難しいのです。

「曽我物語」の伝承は、芸能のなかに数多く入りこみ、曽我が吉原と結ばれるエスカレートぶりですが、この作品ももとは「男伊達初買曽我」の三番目です。

道成寺ももとは、紀州であるかどうかは疑問ですが、紀州の道成寺と決定したうらには、民衆の心に高まっていった熊野信仰と無縁ではないでしょう。

今回は舞踊会ではめずらしく、竹本による道行をつけ、押戻しで終る本格的なものとして、上演いたします。白拍子花子に家元楳若勘二郎が、押戻しでは沢潟屋一門の市川猿十郎が相手を勤め、歌舞伎出身の白藤秀峰が押し戻しの振をつけるという、まさに久方ぶりの楽しみな「道成寺」であります。

京鹿子娘道成寺

道行より押戻しまで

楳若勧二郎　振付

白拍子花子　楳若勧二郎

所化　中村清五郎
中村又雄
中村又三郎
中村又志郎
中村山左衛門
市川左三郎
楳若勧柳
楳若勧藤
楳若勧美紗
楳若藤之助
楳若勧静
楳若和助
楳若新之助
楳若秀雀
楳若洋子
楳若喜子
楳若富多美
楳若松子
楳若正子
楳若敏恵

鱗四天
大川はじめ
向井我女五郎
中村昇三郎
尾上扇五郎
坂東羽之助
中村登志雄
中村富蔵
中村富三郎
中村福雀
市川容之助
中村清五郎
中村又雄
中村又三郎
中村又志郎
中村山左衛門
市川左三郎

大館左馬五郎照剛　市川猿十郎

□長唄
唄　和歌山富十郎
杵屋五太郎
和歌山富之助
稀音家義丸
柏扇一郎
杵屋六里太郎
松島庄一
杵屋六翁
今藤六史
稀音家六貞治
三味線　杵屋弥一郎
杵屋長四郎
杵屋弥助
稀音家助三朗
柏伊千司朗
芳村金吾
杵屋五三之助
杵屋五市郎

□竹本
浄るり　竹本米太夫
竹本秀太夫
竹本常太夫
三味線　野沢松三郎
野沢市造
豊沢宗之輔

□鳴物
梅屋福太郎
梅屋市四郎
梅屋勝之丞
梅屋右近
梅屋一枉登
梅屋喜重郎
梅屋幸之助
福原鶴七郎

□スタッフ
美術　阿部純久
大道具製作　明治座大道具
照明　明治座照明部
プロデュース　楳若勧助
衣装調製　市川衣裳
かつら　酒井かつら
顔師　原多美江
根本博
高橋八重
小道具調製　市川小道具
後見　風間清介
坂東羽寿蔵
狂言方　竹柴楳二
進行事務　樋口栄次郎
押戻し振付　白藤秀峰
演出・総指揮　楳若勧助

岡山後楽園にて　勧二郎

楳若勧二郎特別舞踊公演に寄せて

楳若　勧助

勧二郎の公演を通して共に苦境の時代を過ごしてきた私にとって家元としてでなく友としてこの日の出演は感涙胸に迫るものがある。とくに少年期を過ごした、あの日、あの時、今この時、ともに開花しようとしている、友よ、共に手をとりあって泣こう！

われわれは幾多の困難を乗り越えて――お金が無くて一度も踊ることのできなかった二人しかし友よ、人は苦難を乗り越えることなく天分優れた才能を磨く努力を重ねる中で今日を築きあげてくれたことが二度目のあるはわれわれを助けてくれる力となってくれた親の愛情ある苦言を忘れてはならない。

そして可愛弟子たちの協力、多くの先輩諸候の支援を――友よ、こたえてくれ――

長かった雪降る暗い冬の路から花咲く明るい春の道へ楳若の鐘を響かせよう――

私はそう祈りたい。

見送る影も行く影も

はしらしの雪と消えゆく

悲は飛脚は大和路へ

冥土は飛脚は大和路へ

降る雪も降る

消えて逝く

昭和四十九年十月二十九日(火)
開演　午後二時

於　明治座